



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第13号

目次

- 矢谷学長からの「退任挨拶」
- 「国立大学法人三重大学」の組織概要について
- 人文学部創設20周年記念—文化と社会の法則研究フェスタ開催
- 新・生物資源学部長が選出される

矢谷学長からの「退任挨拶」

退任にあたり、矢谷隆一学長よりご挨拶をいただきました。

『平成10年2月10日着任以来、6年余が経過し、平成16年3月31日をもって退任することとなりました。』

本年3月1日には国立大学協会臨時総会が開催され、現国立大学協会は解散し、新しく社団法人国立大学協会が設立されることとなりました。大学改革の最中であって、21世紀COEが残念な結果に終わったことは無念でなりません。本学の実力はかなり高いところがありますが、今後さらに発展するか、はたまた衰退するかは構成員の努力にかかっております。

発展するための努力として、大学院部局化を含む研究系の充実、及び若手教官の育成が殊のほか重要で、特に自学出身若手研究者の頑張りが必要です。助手で、特定領域研究の代表者の方が幾人かおられます。今後の研究の中心になっていただける若手の出現に期待いたします。評価機構による厳しい評価に耐え、前進することを切に願っております。』



矢谷隆一学長

「国立大学法人三重大学」の組織概要について

平成16年4月1日に発足する「国立大学法人三重大学」の初代学長予定者である豊田長康学長補佐（医学部教授）をはじめとする役員会の理事予定者の方々から、ご挨拶を頂くとともに、本学の新組織体制について解説して頂きました。なお、経営部門については、次号にてご挨拶を頂く予定です。

1) 全体の概要

『三重大学のミッションは「三重から世界へ：地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」です。三重大学は平成16年4月1日から国立大学法人として新しい体制で出発しますが、このミッションを文字通り具現化することが大切です。』

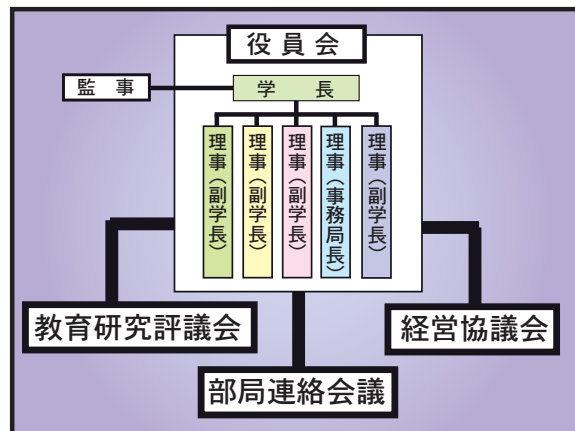
法人化後の基本的な組織としては、学長と5名の理事からなる役員会のもとに教育研究評議会と経営協議会がおかれ、それぞれ教学および経営に関する重要事項が審議されます。経営協議会の委員には半数以上を外部の方をお願いしています。また、部局連絡会議は、役員会と各部局の連絡調整を行います。各理事は、その担当に応じて、全学の各機構、センター、委員会等を所掌し、本学のミッション実現をめざします。



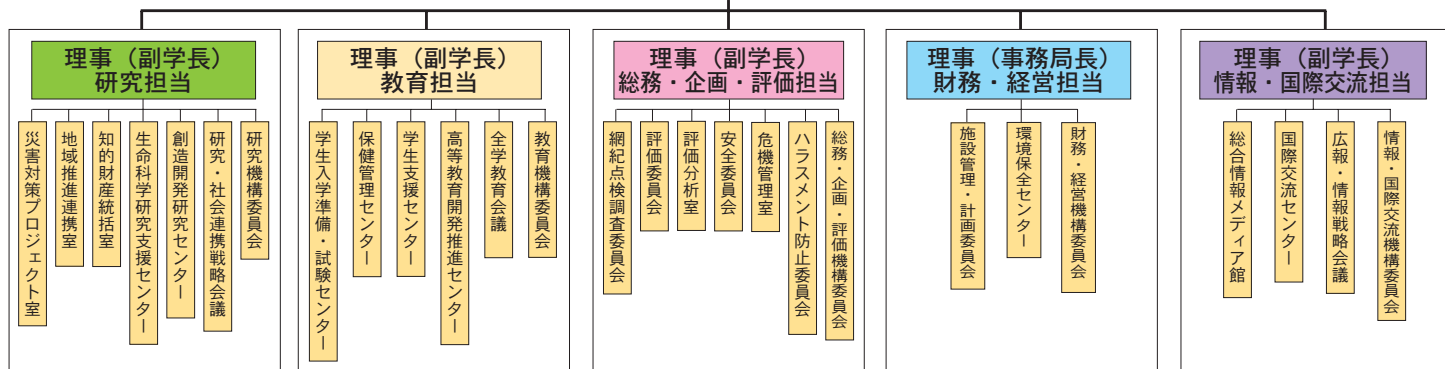
豊田長康教授

法人化後は運営費交付金が毎年減額されるとともに、教育・研究活動の評価および中期目標・計画

の達成度評価が行われるなど厳しい競争的環境におかれませんが、皆様のご協力により、三重大学を逆境をものともしない元気の溢れる大学にしたいと思っております。そのために、「コミュニケーションとチャレンジ」をキーワードにして、教員、職員、そして学生も含めて、すべての構成員の方々に参加していただく「目標チャレンジ活動」を全学的に展開したいと思います。どうか、よろしくお願いたします。』



学長



[注] 組織の詳細については、本学HP (<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/dokuho/sonota/sosikizu1.pdf>) をご覧ください。

2) 研究部門

『近代の歴史を通じて学問は細分化を続け、いまや研究は総合性と全体性を失いかけています。環境、文化、社会、技術にわたる諸問題を横断する刷新的見解は、待望されながらも、いまだその真の姿を現してはおりません。地域の自然と文化と伝統を背景とした豊富な研究資源に恵まれ、自由な研究の風土をもつ我が三重大学こそが、巨大都市中心の近代文明を刷新する、多様性と有機性と人間性の、そしてこれらが調和した研究文化を、この地に創りあげることができると思っています。』

皆さんの創造への夢と情熱が、学生諸君に学問の愉快さを伝え、社会の本当の発展を培うと信じ、研究支援に微力を尽くしたいと思えます。』



森野健輔教授

3) 教育部門

『法人化後の教育機構は、入学試験から就職までの学生生活全体を支援する有機的な体制づくりをめざしています。それらは主に、入学試験、修学・学生生活・健康支援、教育の運営と改善の3つの部分から成っています。学生が三重大学に満足感と同時に充実感を得るようにすることが目標です。そのためには、日々学生と接する教職員の方々の教育活動の充実のためのいねいな支援と、必要なところの大胆な強化が求められていると考えます。』



山田康彦教授

4) 総務・企画・評価部門

『総務・企画・評価機構は法人に移行後の構成員の就労環境や教育研究活動を活性化するための環境整備が重要な課題です。労使協定に基づいて、職場環境の向上に努め、学内はもとより、社会的にも高い評価を得られるよう目標チャレンジ活動を展開したいと考えます。また、自己点検評価とともに教育・研究・社会貢献・学内行政など多様な観点からの評価制度構築は最重要課題です。発展のためのツールとして有用なシステムづくりにご協力をお願い申し上げます。』



渡邊悌爾教授

5) 情報・国際交流部門

『情報と国際交流は、法人化後の三重大学にとって、戦略上極めて重要な位置を占めています。私は、まず総合情報処理センターと図書館が連携して誕生予定の総合情報メディア館構想の実現に全力を尽くすつもりです。また、国際交流の総合的な戦略的プラットフォームとして、2004年度中に国際交流センターを発足させる予定で準備をしています。本機構を支えるこれら2つの拠点にはITとコンテンツベースでの連携システムを持たせつつ、来るべき教育・研究部門の構築を目指したいと考えています。』



高岡孝治教授

人文学部創設20周年記念－文化と社会の法則研究フェスタ開催



中川正教授

2月11日、人文学部棟視聴覚室で、第一回文化と社会の法則研究フェスタ（世話人：中川正教授）が開催され、150名以上の老若男女が各地から集いました。歌、踊り、人形劇など、多彩なプログラムが組み合わせられ、「携帯メールの絵文字の法則」など身近なものから、地域住民と共同で行った尾鷲大庄屋文書の研究成果や修士論文など幅広い研究が「法則」という用語を用いて、わかりやすく発表されました。

新・生物資源学部長が選出される

生物資源学部では、3月5日の教授会に於いて、健康上の理由から辞任する小畑仁学部長の後任に天野秀臣教授を選出しました。任期は、4月1日から2年間です。

投稿のお願い

各種事項（法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光 (hatanaka@archmie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。（フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページでご覧いただけます。）